

緒言

本書が対象とする龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』元亨版は、黒谷上人法然の著述・法語・消息のうち、和語・和文体のものを選び、望西楼了慧道光（一二四三―一三三〇）が編纂した書である。

漢字・漢語のみで書かれた『黒谷上人語燈録』を「漢語燈録」と呼ぶのに対し、「和語燈録」と呼称される。本篇五冊と拾遺二冊の全七冊より成る。本篇は文永十二年（一二七五）の編集になる。拾遺の編集年時は未詳である。

『漢語燈録』は、江戸時代中期にいたるまで、開版されることがなかった。

一方、『和語燈録』は、了慧存命中の元亨元年（一二三二）に開版された。この『和語燈録』は、現存最古の漢字平仮名交じりの刊本である。要求があればこそその出版であり、刊行時は、広く流布したものと推測される。

しかし、元亨版『和語燈録』は、本書が対象とする龍谷大学蔵本が唯一の現存本である。

この龍谷大学蔵『黒谷上人語燈録（和語）』は、版本そのものとして貴重なばかりでなく、その漢字のほとんどに、同時期の振り仮名が振られ、漢文部分には音読・訓読を示す訓点が加点されている。これらによって、鎌倉後期における仏典・仏典注釈書の漢語・漢字文を、補読することなく、当時の日本語で読むことができる。

本書を活用することによって、漢字・漢語に振り仮名の無い『今昔物語集』『宇治拾遺物語』『十訓抄』などの説話集中の漢字・漢語や、漢字文（拡張訓読文）の読みの推定に、より確実性を持たせることができる。

この確かな土台の上に、鎌倉時代の日本語史研究は前進し、浄土宗・浄土真宗の研究も、なお一層深化する。浄土宗・浄土真宗の聖教類は、一般民衆の教化を目指すため、詳細な注文・訓注・漢字への振り仮名・声点等が加点されているものが多い。その諸注を有する本文は、仏教学ばかりでなく、日本語の歴史を研究する資料として、極めて価値が高い。この浄土宗・浄土真宗の諸寺・諸機関が長く伝えてきた膨大な貴重書を活用して、著名な文学作品のみを言語資料とする従来の日本語史研究の幅を広げたい、と願ってきた。

そのため、『選擇本願念佛集』延書の影印・翻刻および語彙総索引・漢字索引を、二〇一〇年に刊行した。

本書『黒谷上人語燈録』元亨版の翻刻・索引は、この精神を承けた、より大部な編著である。諸賢のご批判を仰ぎ、ご活用を願う次第である。

なお、刊行に際しては、龍谷大学図書館より原本閲覧ならびに翻刻・索引公刊の許可を賜わった。ここに明記し、改めて感謝の意を表したい。

二〇二〇年二月十五日

佐々木 勇

目次

カラー口絵

緒言 佐々木 勇 (1)

本文篇

凡例 2

本文翻刻 4

索引篇

語彙総索引 267

あ行 270 / か行 302 / さ行 339 / た行 387 / な行 419 / は行 445 / ま行 471 / や行 491 / ら行 498 / わ行 503

漢字索引 515

研究篇

日本語史資料としての龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』	佐々木 勇	581
龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』の才段拗長音表記	坂水 貴司	603
龍谷大学図書館蔵『黒谷上人語燈録』の仮名文字遣い	土肥 新一郎	619
後記	佐々木 勇	634